

男女共同参画推進特別委員会より

国立遺伝学研究所における公開セミナー開催の報告

男女共同参画推進特別委員会では、2011年2月23日の委員会開催の機会に、大坪久子委員による特別セミナー「“Beyond the Bias and Barriers” ～優れた遺伝学者の芽を生かすには～」を国立遺伝学研究所内にも公開し、所内から13名の方々にご参加いただくことができました。

セミナーでは、大坪委員の長年にわたる男女共同参画、女性研究者支援の活動のなかから、女性研究者の現状とその分析について、豊富なデータを示されながらのお話がありました。日本の研究者に占める女性割合（13%、2009年3月31日現在）が先進国のなかで最下位に位置しているのは周知のことですが、この背景にある諸問題のなかで、特に、無意識に生じるバイアスや女性側にもあるバリアに焦点が当てられました。家事や育児の実態や仕事との関係に関する考え方に男女間で差異のあることは、男女共同参画学協会連絡会が実施した大規模アンケートからも明らかにされています。また、他学会の例になりますが、シンポジウムの発表者やオーガナイザーにおける女性比率や、学会賞受賞者と審査員の女性比率の関係（審査員に女性がいる場合の方が女性の受賞者が出やすい）には、興味深い男女間の差異が見られています。職業選択に際しても、女性と男性では意思決定のプロセスの異なることが医師や看護師の例で如実に示され、社会通念に潜む見えないバリアが、こうしたところに影響を及ぼしていることを知らされました。社会全体の意識を変えていくのは容易なことではありませんが、まずはどのような問題があるのかを明らかにし、男女で問題意識を共有していくところから始めると、お話をうかがってあらためて感じた次第です。

本学会では、学会大会の際に男女共同参画ランチョンワークショップを開催し、このような問題について考え、意見交換をする機会を設けております。また、男女共同参画学協会連絡会において、学会を含むリーダーシップ活動における機会均等の問題に取り組むワーキンググループ活動に協力して、学会参加登録時に属性調査のアンケートを実施いたします。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

（文責：男女共同参画推進担当幹事 松浦悦子）